



# 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月29日

上場会社名 株式会社神戸製鋼所  
コード番号 5406 URL <http://www.kobelco.co.jp>

上場取引所 東 名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川崎 博也  
問合せ先責任者 (役職名) 秘書広報部長 (氏名) 安田 幸展

TEL 03-5739-6010

四半期報告書提出予定日 平成25年7月31日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	418,619	△3.6	19,358	—	17,125	—	18,721	—
25年3月期第1四半期	434,146	△7.9	△2,798	—	△10,476	—	△32,228	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 22,557百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △19,804百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	6.23	—
25年3月期第1四半期	△10.73	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	2,230,357	589,280	23.8
25年3月期	2,226,996	569,922	23.0

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 530,347百万円 25年3月期 512,051百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

期末配当予想額については未定であります。

## 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	890,000	3.7	40,000	620.2	25,000	—	25,000	—	8.32
通期	1,860,000	10.4	90,000	701.1	60,000	—	55,000	—	18.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日発表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、【添付資料】P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	3,115,061,100 株	25年3月期	3,115,061,100 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	113,741,999 株	25年3月期	114,187,811 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	3,001,325,830 株	25年3月期1Q	3,000,922,420 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (2)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間の我が国経済は、金融政策や財政政策などの経済対策を背景に、昨年までの円高が是正されたことにより輸出産業が持ち直しに向かい、震災からの復興に伴う需要を含め公共投資が増加するなど、回復基調が継続しました。海外では、欧州においては引き続き景気は低調に推移しましたが、米国においては緩やかながら景気回復基調が継続しました。中国においては、経済成長を維持しているものの、景気の減速基調は継続しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材の販売数量は、円高の是正の影響などにより輸出環境に改善がみられる中、着実に海外需要を取り込んだことにより、前年同期を上回りました。アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材などの需要が堅調に推移した前年同期と比較すると下回りましたが、銅圧延品の販売数量は、銅板条において半導体の需要が回復基調にあることや、銅管において海外需要が堅調に推移したことなどから、前年同期を上回りました。油圧ショベルの販売台数は、震災からの復興に伴い国内需要は増加しましたが、中国及び東南アジアにおいては需要が低調に推移したことから、前年同期を下回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期に比べ155億円減収の4,186億円となりました。一方、総コストの削減が進展したことや、固定資産の減価償却方法を変更した影響及び在庫評価影響の好転もあり、営業損益は、前年同期に比べ221億円増益の193億円の利益、経常損益は、前年同期に比べ276億円増益の171億円の利益となりました。また、当社保有のナブテスコ(株)の株式を売却(※)したことによる投資有価証券売却益などを特別利益として計上した一方、神戸製鉄所の上工程設備を加古川製鉄所に集約する鋼材事業の構造改革を決定したことに伴い、神戸製鉄所の休止予定設備の減損損失を特別損失として計上しました。この結果、前年同期には投資有価証券評価損を特別損失として計上していたこともあり、四半期純損益は、前年同期に比べ509億円増益の187億円の利益となりました。

※ナブテスコ(株)の株式の売却については、以下のとおりであります。

	当社保有	退職給付信託口
売却株式数	15,100千株	4,011千株
売却額	295億円	78億円
投資有価証券売却益	239億円	—

当第1四半期連結累計期間のセグメント毎の状況は以下のとおりであります。

**鉄鋼事業部門**

鋼材については、自動車向けの需要が国内においては回復基調にあり、海外においては米国を中心に堅調に推移したことや、円高の是正の影響などにより輸出環境に改善がみられる中、着実に海外需要を取り込んだことにより、販売数量は、前年同期を上回りました。また、販売価格は、一部を除いて価格交渉が未決着であり、期末に向けて下落した前年度末の水準で推移したことから、前年同期を下回りました。

鑄鍛鋼品の売上高は、造船向けの需要が低調に推移したことや、販売価格が下落した影響などにより、前年同期を下回りました。また、チタン製品の売上高も、前年同期を下回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比3.4%減の1,857億円となりましたが、経常損益は、総コストの削減が進展したことや、固定資産の減価償却方法の変更影響及び在庫評価影響の大幅な好転もあり、前年同期に比べ242億円増益の53億円の利益となりました。

**溶接事業部門**

溶接材料の販売数量は、国内造船向けの需要が低調に推移したことや、中国において景気減速が継続した影響などにより、前年同期を下回りました。また、溶接システムの売上高についても、国内及び中国の建機向けの需要が低迷したことなどから、前年同期を下回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比4.5%減の204億円となりましたが、経常利益は、総コストの削減が進展したことや、円高の是正の影響などから、前年同期に比べ7億円増益の12億円となりました。

### アルミ・銅事業部門

アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材などの需要が堅調であった前年同期と比較すると下回りました。アルミ鋳鍛造品の売上高については、海外における自動車向けの需要が堅調に推移したことから、前年同期を上回りました。

銅圧延品の販売数量は、銅板条において半導体の需要が回復基調にあることや、銅管において海外需要が堅調に推移したことなどから、前年同期を上回りました。

以上の状況に加え、販売価格に転嫁される地金価格が上昇したことから、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期並の723億円となり、経常利益は、在庫評価影響の好転もあり、前年同期に比べ35億円増益の53億円となりました。

### 機械事業部門

海外を中心に石油精製・石油化学業界向けの圧縮機の需要が堅調に推移したことなどから、当第1四半期連結累計期間の受注高は、前年同期比14.7%増の314億円となり、当第1四半期連結累計期間末の受注残高は、1,225億円となりました。

一方、当第1四半期連結累計期間の売上高は、樹脂機械などの大型案件の売上計上が集中した前年同期と比べると20.5%減の315億円となり、経常利益は、昨年までの円高の影響により受注時採算が悪化した案件が計上されたことなどから、前年同期に比べ14億円減益の10億円となりました。

### エンジニアリング事業部門

当第1四半期連結累計期間の受注高は、大型案件の受注はなかったものの、国内向け保守・更新案件を中心に受注を積み上げた結果、前年同期比11.8%増の54億円となり、当第1四半期連結累計期間末の受注残高は、603億円となりました。

また、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比49.0%増の106億円となり、経常損益は、前年同期に比べ7億円増益の2億円の利益となりました。

### 神鋼環境ソリューション

当第1四半期連結累計期間の受注高は、廃棄物処理関連事業の大型案件を受注した前年同期と比べると、37.8%減の234億円となり、当第1四半期連結累計期間末の受注残高は、530億円となりました。

また、当第1四半期連結累計期間の売上高は、廃棄物処理関連事業での増収などにより、前年同期比2.5%増の139億円となりましたが、経常損失は、案件構成の変化などにより、前年同期並の1億円となりました。

### コベルコ建機

油圧ショベルの販売台数は、国内においては震災からの復興に伴う需要を背景に増加しましたが、中国においては需要環境に改善がみられず減少し、東南アジアにおいても減少したことから、全体としては、前年同期を下回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比6.9%減の746億円となり、経常利益は、前年同期に比べ10億円減益の28億円となりました。

### コベルコクレーン

クローラクレーンの販売台数は、国内においては震災からの復興に伴う需要を背景に増加したことに加え、海外においても、欧州向けは減少したものの、東南アジア向けなどが増加したことから、前年同期を上回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比21.2%増の115億円となり、経常損益は、円高の是正により輸出採算が改善したこともあり、前年同期に比べ13億円増益の8億円の利益となりました。

### その他

神鋼不動産(株)においては、分譲事業において引渡戸数が増加するとともに、賃貸事業も堅調に推移しました。(株)コベルコ科研においては、ターゲット事業などにおいて、需要が低迷しました。

以上の状況から、その他の事業全体の当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比3.9%増の144億円となりましたが、経常利益は、前年同期に比べ1億円減益の8億円となりました。

(2) 連結業績予想に関する定性的情報

前回(平成25年4月26日)業績予想時と比較すると、自動車向けの需要が堅調であることなどから、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が想定を上回り、油圧ショベルやクローラクレーンの販売台数についても、国内外において想定を上回るものと見込まれます。鋼材主原料価格、鋼材販売価格などにおける未確定な要素については前回同様一定の想定を置いた上で、通期の売上高及び営業利益、経常利益の予想を上方修正しております。また、固定資産の減損損失を特別損失として計上した一方、投資有価証券売却益などを特別利益として計上した影響もあり、通期の当期純利益の予想も上方修正しております。

(当期の配当について)

当社は、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。これに基づき、当期の中間配当につきましては、見送る方針を決議いたしました。なお、期末配当につきましては、考慮する要素に不透明な部分も多いことから、予想額を未定としております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

有形固定資産の減価償却方法については、従来、主として建物及び構築物は定額法、その他は定率法を採用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間よりその他の資産についても定額法に変更しております。

当社グループにおいては、近年の経営環境の変化に伴い、鋼材事業をはじめとして、従来の生産能力増強投資が減少する一方、競争力強化投資が増加しております。また、平成25年度を初年度とする中期経営計画において、製造設備は長期安定的な稼働を想定しており、保全工事などの設備維持コストも平準化し、市場環境や技術の変化による陳腐化リスクも少ないと見込んでおります。このような状況を踏まえ、より適正な費用と収益の対応を図り、経営実態を的確に反映するため、定額法に変更するものであります。

この変更に伴い、従来の方法に比べて、減価償却費が5,196百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は5,919百万円、それぞれ増加しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	114,103	116,465
受取手形及び売掛金	318,445	304,096
商品及び製品	161,431	159,032
仕掛品	109,902	117,455
原材料及び貯蔵品	129,184	137,157
その他	161,126	199,346
貸倒引当金	△2,276	△2,779
流動資産合計	991,916	1,030,773
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	290,571	284,277
機械装置及び運搬具（純額）	373,504	362,057
土地	201,292	200,782
その他（純額）	42,466	43,627
有形固定資産合計	907,835	890,745
無形固定資産	20,184	19,952
投資その他の資産		
投資有価証券	195,292	180,060
その他	114,669	111,662
貸倒引当金	△2,901	△2,838
投資その他の資産合計	307,060	288,885
固定資産合計	1,235,080	1,199,583
資産合計	2,226,996	2,230,357
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	376,713	387,355
短期借入金	377,087	382,474
1年内償還予定の社債	20,000	26,000
未払法人税等	4,704	3,807
引当金	31,803	25,765
その他	152,572	144,084
流動負債合計	962,881	969,487
固定負債		
社債	177,000	161,000
長期借入金	385,039	383,843
退職給付引当金	51,557	53,075
その他の引当金	1,808	1,785
その他	78,786	71,884
固定負債合計	694,192	671,589
負債合計	1,657,073	1,641,076

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	233,313	233,313
資本剰余金	83,125	83,125
利益剰余金	253,199	271,265
自己株式	△51,615	△51,398
株主資本合計	518,022	536,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,147	10,349
繰延ヘッジ損益	△1,685	△2,552
土地再評価差額金	△3,346	△3,362
為替換算調整勘定	△22,086	△10,392
その他の包括利益累計額合計	△5,971	△5,957
少数株主持分	57,871	58,932
純資産合計	569,922	589,280
負債純資産合計	2,226,996	2,230,357



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	434,146	418,619
売上原価	395,079	358,668
売上総利益	39,067	59,951
販売費及び一般管理費	41,865	40,592
営業利益又は営業損失(△)	△2,798	19,358
営業外収益		
受取利息	1,047	879
受取配当金	1,376	1,127
業務分担金	1,383	1,232
持分法による投資利益	1,684	251
為替差益	—	3,234
その他	2,956	3,746
営業外収益合計	8,448	10,471
営業外費用		
支払利息	5,171	4,934
出向者等労務費	3,567	3,046
その他	7,388	4,723
営業外費用合計	16,127	12,704
経常利益又は経常損失(△)	△10,476	17,125
特別利益		
投資有価証券売却益	—	23,928
負ののれん発生益	—	1,713
特別利益合計	—	25,642
特別損失		
減損損失	—	18,454
投資有価証券評価損	14,141	—
特別損失合計	14,141	18,454
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△24,618	24,312
法人税、住民税及び事業税	3,891	3,530
法人税等調整額	2,046	1,526
法人税等合計	5,937	5,056
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△30,556	19,256
少数株主利益	1,671	534
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△32,228	18,721

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△30,556	19,256
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,369	△11,147
繰延ヘッジ損益	46	△1,073
為替換算調整勘定	9,360	14,031
持分法適用会社に対する持分相当額	△25	1,492
その他の包括利益合計	10,751	3,301
四半期包括利益	△19,804	22,557
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△23,927	18,750
少数株主に係る四半期包括利益	4,122	3,806

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。